

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675100111
法人名	有限会社 フェルナンデス
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	鹿児島県伊佐市菱刈重留1137番地 (電話) 0995-24-1688
自己評価作成日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私たちはあなたが穏やかに笑顔で過ごせるよう、ゆっくり、ゆったり家庭的な環境の中であなたの声を聴き、意思の尊重をし、あなたらしい生活ができるよう努めます」を理念に掲げ、身体拘束に関わる全てを禁止として申し合わせ、手を出しすぎず意思の確認をしながら、日々の生活が楽しみのあるものになるように、利用者スタッフ一緒になって生活している。

また利用者個人の身体レベルに合わせた日常の過ごし方を個別化して行い、希望される方には協議を重ねながら看取りへの取り組みが実現している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の定員が6名のホームであり、家庭的な雰囲気を大切に「笑顔で過ごせるよう、ゆっくり、ゆったりとあなたらしい生活ができるように」との理念を、日々の生活支援の中で実践しており、利用者の立場でサービスを提供できるように努めている。

- ・家族会が年2回開催されており、行事への参加や面会も多い。職員は、家族と信頼関係を築けるように取り組んでおり、家族や利用者からも評価されている。

- ・ホームは、地域の行事や防災訓練にも参加しており、校区の地域振興計画への参画や中・高校生の職場体験等の受け入れも行っている。近隣住民が遊びに寄ったり、野菜などの差し入れがあるなど、地域との交流やつながりを大事にしている。

- ・利用者の健康管理については、看護師を配置し、訪問看護事業所と連携して、医療機関も隣接し、緊急時や夜間の往診対応も可能で、適切な医療が受けられて安心である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、ミーティング等で振り返りながら日々努力している。	理念は全職員で作り上げ、事業所内に掲示し、パンフレットにも載せている。毎月のミーティング等にて、理念について確認し合い、職員はよりよいサービスが提供できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	日常の挨拶や声掛け。野菜を頂く等してしている。地域から声をかけてもらっての避難訓練。地域振興計画への参加など。校区での活動に参加している。	自治会に加入し、地域の夏祭りや防災訓練に参加している。校区の地域振興計画への参画や中・高校生の職場体験等の受け入れもしている。近隣住民が遊びに来たり、野菜などの差し入れがあるなど、地域との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	通報システムを設置し近所からの緊急呼び出しを受信できるようになった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出された事案はミーティングで報告し改善等にむけて検討している。	会議には、家族や民生委員・地域代表・市担当者・地域包括支援センター職員等が出席し、活動内容等を説明したり、外部評価の結果についても報告している。意見等は、サービスの質向上に反映させ、地域の理解と支援を得るために努力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定例地域密着推進会議での情報交換や推進会議ほか折の都度助言や情報を頂きながら関係づくりに努力中。	運営推進会議に市担当者や地域包括支援センター職員の出席があるほか、地域密着推進会議の定例会に参加し情報交換を行っている。必要に応じて、担当課へ出向き相談等を行い、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設当初からミーティングにて重ね重ね身体拘束に関わるすべての禁止を伝え、折に触れ振り返りながら実施中。	入居時に事業所の基本方針を説明し、事業所内に方針を掲示している。毎月のミーティング等にて、身体拘束を行わないケアに関わる勉強会を実施しており、職員の共通認識を図っている。また、日中は玄関の施錠はせずに、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を用いたりしながら、虐待の具体的な内容等で振り返り、申し合わせている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は取り組めていない今後の課題		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に説明を行い、質問や不明な点を尋ね、同意を得ながらの説明に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時や家族参加を中心とした年に2回のイベント時などに声をかけている。またご意見箱の設置、ほか意見を交換しやすい関係作りを心掛けている。</p>	<p>利用者からは日頃の生活の中で、意見や要望を聞いている。家族からは、家族会や行事参加時・面会時等に要望を聞いており、家族からも評価されている。意見等に対しては、記録してミーティング等で話し合い、速やかに対応し解決できるように努めている。意見箱も設置している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の声には耳を傾け幹部会で検討し可能な限り反映している。</p>	<p>代表者や所長・管理者は、毎月のミーティング等にて、日常的に職員からの運営に関する意見や要望等を聞き、コミュニケーションを取るように心がけている。必要に応じて、グループ事業所の幹部会にて、話し合っている。また、勤務希望についても配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>頑張る人、そうでない人とは賞与等で差をつけている。資格を取得した人には手当をつけるなどやる気を促進するようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修等への自主参加を呼びかけ交通費の支給や勤務体制に考慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着推進会議等で交流を図っている。他にも交流の機会はあるがの取り扱いについての視点や質の向上が目的になっているかなど内容をよく検討してからの参加にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>しっかりと向き合いよく観察し、話を聴き寄り添うことを念頭に努力している</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談、入所前からの面談などお互いに言える関係づくりをしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談段階で内容を聞きわけ助言や解決の手助けできるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活していく中で不得意な部分の見極めや手助けを心掛け手を出しすぎないようにしている。よく話し合い一緒に行うことを念頭においている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	声を聴き一緒に関わっていくという気持ちで接している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれに応じて関係が保てるように可能な限り支援している。	友人や知人の訪問があり、電話等での支援をして継続的な交流ができるようにしている。地域行事への参加や墓参り・買い物・医療機関への受診・自宅等への外出についても、事業所に対応して、できるだけ希望に添えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に関わってコミュニケーションや関係づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までには例はないが考え方としては持っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	提案する場合も、意思確認しながら把握に努めている	利用者からは、日々のふれあいの中で少しの変化も見逃さず思いや意向の把握に努めている。家族からも、家族会や面会時等に情報を得ている。本人の意思を尊重した生活ができるように、職員が情報を共有して支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所後も家族や関係者から情報を得るなどし、可能な限り努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の力量に合わせてるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々朝礼などでスタッフ間からの意見アイデア等を出し合い、話し合いながら介護の方向性を確かめているが、他からの意見はまだ不足しているため今後も努力が必要。	普段の生活の中での気づきを記録し、利用者や家族の意見を聞き、暮らしぶりをもとにミーティングで話し合っている。利用者一人ひとりについて、現状に即したプランになるように作成している。介護計画の見直しは、2ヶ月に1回実施し、状態が変化した場合は、随時見直している。モニタリングも2ヶ月毎に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録用紙など様式を検討し試行錯誤の段階である。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>柔軟な対応ができりうように法人本体で検討中。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>避難訓練などで一部協力体制はとれているがまだまだ不足しており今後の課題である</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者個人が入所以前にかかりつけていた主治医を継続して受診し、相談助言を頂けるよう関係づくりに努めている</p>	<p>希望のかかりつけ医への支援体制を整えており、通院は看護師を配置して職員が行い、必要に応じて家族の協力も得ている。医療機関の緊急時や夜間の往診や歯科の往診もあり、訪問看護師と連携し健康管理を行い、利用者が適切な医療を受けられるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制による訪問看護事業所との連携をとりながら支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の状況を伝え通院可能な段階での早期退院のお願いしている。入院中もリロケーションゲームを最小限にできるように家族や医療機関と連携し毎日何らかの形でかかわりを絶たないように努めている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>法人自体で方針が定まっており、それに向け必要時に段階に応じて説明し、グループホームでの看取りを実現している。</p>	<p>事業所の方針として「看取りに関する指針」があり、必要に応じて同意書も準備している。利用者の状況に合わせて説明を行い、希望される場合は、家族と話し合っている。主治医に相談し、連携してできるだけ支援していけるように対応しており、看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の連絡体制の徹底をし、連携をしながら指示を受けて対応している。応急手当等はマニュアルを設置。周知に努めてはいるが実践は機会があまりない</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域との協力あり。共同で避難訓練を実施した。また近隣半径50メートルの地域の世帯に呼び出しができる緊急呼び出し装置の設置を行った</p>	<p>避難訓練は、毎年実施し近隣住民も参加している。2ヶ月毎に自主訓練を行い、地域の防災訓練にも参加している。緊急呼び出し装置を設置し、地域の世帯に呼び出しができる。消火器の使用訓練や消火設備の定期点検も行っており、非常用の食料等も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等で勉強会、事例を用いての振り返り再確認を行っている。	人格の尊重とプライバシーの確保については、ミーティング等で事例を用いたりして、勉強会を実施している。職員自身の支援方法の振り返りを、15項目のチェック表にて行うなど、プライバシーを損ねないように、個人を尊重したケアが実践できるように取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り対応を行っている。すべて意思確認を行いながら日々接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人本位で足りない部分の支援をしてる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや皿拭きは一緒に行う。またイベントの時など嗜好に沿って提供したり季節の行事では昔の風習などを取り入れている	近隣からの野菜の差し入れや庭の菜園の野菜を収穫して、利用者の好みを聞いて、調理を行っている。誕生日には、希望のメニューを準備し、外出行事では手作り弁当を作るなどして、利用者が楽しめるように工夫している。利用者も下ごしらえなどできる範囲で手伝い、職員と利用者が、同じテーブルを囲んで食事をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	日常的に記録確認を行いながら 不足するときは品を変える等の 対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	3食後口腔清潔の支援を個人に あった方法で支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	状況を見極めながらのオムツの 使い分けや、排泄の記録、また 常にこれでいいのかという話し 合いを日々行いながらケアして いる	排泄チェック表を作成し、利用者一 人ひとりの排泄パターンを把握して いる。状況に対応したおむつ等の使 い分けや適時に声かけを行ってい る。トイレ誘導をして、できるだけ おむつをしないで済むように、排泄 の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をもとに便秘になら ないように早期に把握し水分補 給や食物の選出、運動、処方内 での下剤の調整など行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>本人の意思を確認しながら入浴できるように心掛けている</p>	<p>入浴は、利用者の希望を尊重して、毎日入浴する利用者もいる。ゆず湯や入浴剤などを使用したりして、一人ひとりがくつろいだ気分で入浴できる。入浴時間も自由に配慮している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>消灯時間は設定せず本人本位で支援している</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全ての職員が全部の薬の詳細までは記憶していないが、薬情報は閲覧して確認できるようになっている。また確実な内服のために薬局の協力をうけ努力している</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>季節を味わえるイベントを細かに実施し昔を思い出しながら四季を味わい交流を深めることができるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>家族の協力で外泊を実施している。また家庭の事情などでかわらない方も遠足など外出できる機会を設けている。</p>	<p>日常的には、天気の良い日は散歩や近隣の店へ買い物に行ったりしている。月に1回は定期的にドライブを行い、外食や買い物を実施している。利用者の希望による墓参りや自宅への外出等も、できるだけ要望に添えるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>嗜好品や希望の買い物は一緒に行える準備はあるが現在の利用者には適応者がいない。代行での買い物が主である。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙のやり取りは最近までよく行われていたが現在は適応者がいないため行っていないがその体制はできている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>湿度や室温は細かく調整している。季節に応じて模様替えや飾りを行い四季を味わいながら過ごせる工夫をしている。</p>	<p>食堂は明るく家庭的な温かさを感じさせ、リビングは広くこたつやソファもあり、ゆっくり過ごせる場所となっている。温度や湿度等の環境にも配慮しており、利用者の作品や雛人形等、季節を大事にした飾り付けがなされており、利用者が落ち着いて生活できる環境になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれがリラックスして過ごすことができるようにソファや間仕切りなど設置して対応している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時に自宅で使い慣れたものを持ってきていただくように働きかけるなどして落ち着いた環境づくりに努めている</p>	<p>居室は、洋室でベッドが備え付けられているが、自分用ベッドを持ち込むこともできる。居室には、家族の写真や本人の使い慣れた家具・ラジオ等もあり、利用者が安心感して暮らせる配慮をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者と一緒に居室の名札を作り飾ったりトイレの場所を書いて掲示するなどして工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない